

JOURNAL OF SPORT SCIENCES AND OSTEOPATHIC THERAPY

スポーツ 整復療法学研究

March 2018

平成30年3月

原著論文

- 伊藤幹、村松成司、中川雅智、服部洋児、服部祐児 [111]
就寝時のアルカリイオン水摂取が起床時および起床後の運動負荷時の血液性状および
血圧の変動に及ぼす影響

学会通信

- 第19回日本スポーツ整復療学会大会印象記
第20回日本スポーツ整復療学会大会案内—第1報—
理事会、総会、評議員会報告

日本スポーツ整復療学会

The Japanese Society of Sport Sciences and
Osteopathic Therapy (JSSPOT)

就寝時のアルカリイオン水摂取が起床時および起床後の運動負荷時の血液性状および血圧の変動に及ぼす影響

伊藤幹¹, 村松成司², 中川雅智³ 服部洋兒⁴, 服部祐兒³

¹名古屋学院大学, ²千葉大学名誉教授, ³東海学園大学 ⁴愛知工業大学

Effect of alkali ion water intake before retiring and exercise loading after waking up on changes of several blood characteristics and blood pressure in men

ITO Motoki¹, MURAMATSU Shigeji², NAKAGAWA Masatomo³
HATTORI Yoji⁴ and HATTORI Yuji³

¹ Nagoya Gakuin University, ² Professor emeritus of Chiba University, ³ Tokai Gakuen University

⁴ Aichi Institute of Technology

Abstract

In this study, we examined the effect of fluid consumption before sleeping on the loss of body fluids and activity after waking. The subjects were 6 healthy university students. The experiment was divided into 3 phases depending on the type of beverage consumed—a non-fluid consumption phase (N phase), tap water consumption phase (W phase), and alkaline ionized water consumption phase (A phase). Based on the changes in blood properties during sleeping and the results of exercise stress tests, fluid loss was slightly decreased during consumption of alkaline ionized water compared to that during the other phases. These results suggest that consuming alkaline ionized water before sleeping may aid in maintaining the amount of fluid in the body and the circulatory functions. (J.Sport Sci. Osteo.Thera,19(3), 111-116, March, 2018)

Key Words: alkaline ionized water (アルカリイオン水), sleeping (睡眠), fluid in the body (体水分), circulatory functions (循環系機能)

緒言

近年の連日の熱帯夜、猛暑夜は人の快適な睡眠を妨げ、十分な疲労回復をもたらさないばかりか、睡眠時においてのおびただしい発汗から脱水症状が引き起こされる。これら不眠によるストレスの増大と大量発汗による脱水症状の発症は体力の消耗を引き起こし、夜中の救急搬送が毎日のように報道されている。もはや現代の熱中症は暑熱環境下での作業時、運動時だけに限られた問題ではなく、日常生活や睡眠時にも容易に起こるうる緊急の課題であるといえる。このような状況下にあって脱水防止対策としての水分補給に関する情報の提供は急務であり、現代健康管理教育における重要な柱となり得るものである。岩本¹⁾によれば、高齢者では、些細な原因で脱水症に陥り、脳梗塞や心筋梗塞などの血栓症を引き起こしやすい

としており、就寝時の水分摂取の必要性がさらに求められているといえる。

今回は就寝時の水分摂取が重要であることを確認するとともに、近年飲料水として注目されているアルカリイオン水に着目して検討した。

アルカリイオン水は一般名「飲用アルカリ性電解水」と呼ばれ、アルカリイオン製水器を用いて食品添加物として認められている乳酸カルシウムなどのCa剤を溶出補充した水道水を有隔膜電解槽で弱電解することによって陰極側に生成するpH9～10の電解水である。田代ら^{2,3)}によれば、飲用することによって慢性下痢、消化不良、胃腸内異常発酵、制酸、胃酸過多に使用可として1965年に認可され、1992年にアルカリイオン製水器検討委員会によって効能効果の検証・研究が行われ、安全性と上記の効能が確認されてい

る。さらに、二重盲検試験によっても胃酸過多、腸内異常発酵、便秘異常といった腹部不定愁訴に対する改善効果が明らかにされている。

また、動物有効性試験では、腸内発酵の抑制効果や、アンモニア、フェノールの低下傾向に加え、カルシウム吸収効果骨中カルシウム濃度の上昇、骨形成の正常化、胃粘膜障害の抑制効果虚血性再灌流性並びにアスピリン惹起性胃粘膜障害の抑制、高血圧発症の軽減が報告されている^{4,5,6)}。臨床試験では、胃における制酸効果胃内 pH の上昇(1000ml/日摂取)、腹部症状の改善慢性下痢、便秘、腸内異常発酵、消化不良が 88%に改善効果が得られたというもの(1日 1000ml, 2週間)、腹部症状の改善に関して浄水期に対して有意に有効であったというもの(1日 500ml, 4週間)が報告されている^{2,3,7,8)}。

このようにアルカリイオン水に関しては多くの研究がなされてきているが、その中心は腹部愁訴に関わるものであり、日常生活および運動時の水分補給あるいは脱水症状発症の防止という観点での研究は未だ不足しているといえる。そこで、今回、就寝時の発汗に伴う脱水症状の防止のための水分補給の効果と、摂取水分種の違いによる効果の差について注目した。

方法

被験者は健康な男子大学生 6 名を用いた。事前に実験の趣旨説明を行い、実験参加の意思を確認した。実験の流れを Fig.1 に示した。被験者にはこの一連の実験を飲料摂取条件により 3 回行った。飲料摂取条件は、摂取なし、水道水 500ml 摂取、アルカリイオン水 500ml 摂取の 3 期とした。これら 3 条件は被験者によりその順序を入れ替えて行った。また、被験者には夕食後から Drink までの 4 時間、水分摂取を控えるように指示した。そして、水道水条件時およびアルカリイオン水条件時には就寝時にそれぞれ一定の量の飲料を摂取させた。摂取飲料水種は検者および被験者には分からないようにし、また、当日の飲料水投与は第三者によって行われた。飲料水摂取後、直ちに

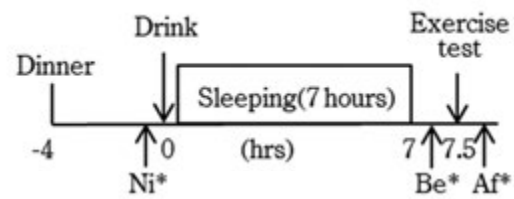


Fig.1. Timing of drink ingestion and exercise test in this exam. *:Blood sampling and other measurements (Ni:Night, Be:Before exercise, Af:After exercise)

就寝し、その後 7 時間の睡眠を取った。起床時には 30 分以内に Fig.2 に示す一連の運動テストを行った。

運動はモナーク社製自転車エルゴメータを用いて行った。採血後、3 分間の安静をとり、ほとんど無負荷のウォーミングアップを 3 分行わせた後、1kp, 2kp, 3kp の負荷でそれぞれ 3 分間ずつ運動させた(Fig.2)。

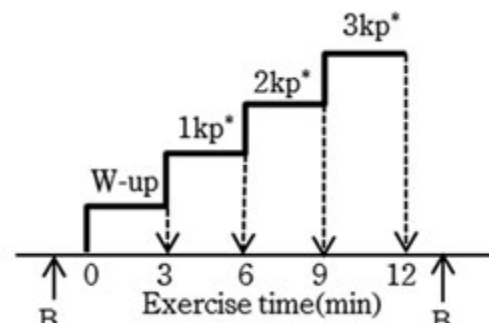


Fig.2. Exercise test protocol.

Exercise test was undertaken with bicycle ergometer. *: Intensity of Exercise load (kp). B:Blood sampling W-up:Warming-up.

飲料摂取前、運動開始直前、運動直後の計 3 回、採血および血圧、加速度脈波の測定を行った。採血は看護師に依頼した。血液分析項目は一般的な生化学分析を中心に多項目行ったが、本報告においてはその中でも脱水症状発現に関連する項目に焦点を当て、血中水分含量、血清浸透圧について報告することにした。そのほかに、運動と関連した乳酸値の変動について報告する。血液分析の多くはファルコバイオシステムズに依頼した。血中乳酸値はラクテートプロ(アークレイ株式会社)を使用した。血中水分量は全血を充填した毛細管を乾燥機にいれ、その重量変化を測定することにより算出した。つまり、初期重量との差を血中水分量(%)とした。加速度脈波はフューチ

ヤーウェーブ社製 BC チェッカーを用い、左手第2指もしくは第3指の指尖部より導出し、加速度脈波係数 (APG-index) を算出した。収縮期血圧、拡張期血圧、心拍数はデジタル自動血圧計オムロン HEM-759P を用いて測定した。

期内及び期間の検定には Student の t-検定を用い、有意水準 5%未満を有意な差として用いた。

結果

実験時の体重の変動を Ni 時を基準にした相対変化量で Fig.3 に示した (平均±標準偏差)。いずれの飲料実験時においても Ni (Ni:Night) 時と比較して Be 時 (Be:Before exercise), Af (Af:After exercise) 時いずれも有意に減少した ($p<0.05$)。水道水摂取時は Be 時と Af にも有意な減少を見た ($p<0.05$)。飲料種間では Be 時において N 期と A 期間に有意な差が観察された ($p<0.05$) 以外はいずれの期間の間にも有意な差は見られなかった。しかしながら、平均値では飲料水非摂取期 (N 期) の体重減少量が大きく、続いて水道水摂取期 (W 期), アルカリイオン水摂取期 (A 期) の順であった。

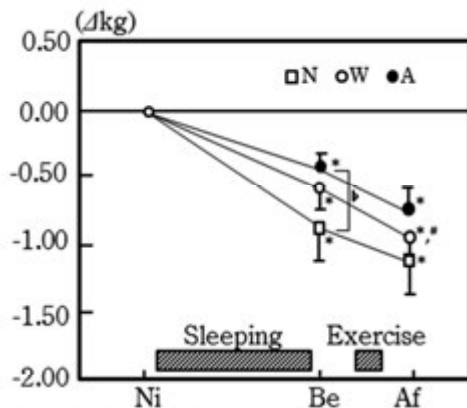


Fig.3. Relative changes in body weight compared with data at Ni. (N:Water-free, W: Water, A: Alkaline water) Significant level: * $p<0.05$ compared with Ni, * $p<0.05$ with Be, and * $p<0.05$ between N and A trials.

血中水分量の変動を Fig.4 に示した。睡眠の前後では A 期ではやや低下したのに対し、N 期、W 期ではそれよりも大きな低下を示した。しかしながら、いずれの低下も有意ではなかった。起床後の運動負荷時では N 期において急激な低下を示した。それに対し、

W 期では N 期よりも低下は少ない様子にあったが、有意な差であった ($p<0.05$)。A 期では運動による血中水分の低下は観察されたものの、他の 2 期に対して大きなものではなかった。

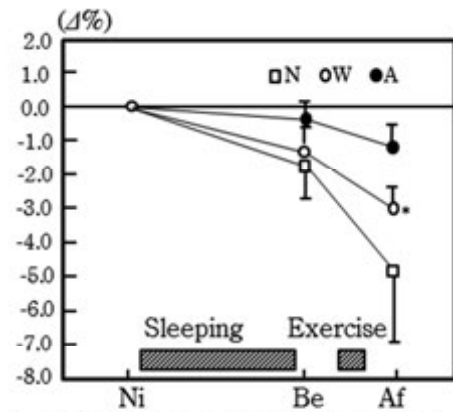


Fig.4. Relative changes in blood water (%) compared with data at Ni. (N:Water-free, W: Water, A: Alkaline water) Significant level: * $p<0.05$ compared with Ni.

血清浸透圧の変動を Fig.5 に示した。血清浸透圧に関しては Be 時に N 期がわずかに上昇し、W 期、A 期は減少する傾向が確認された。Af では、N 期、W 期は上昇傾向を示したが、A 期においてはわずかな上昇に抑えられた。N 期では Ni と Af 間、Be と Af 間に、A 期では Be と Af 間に有意な上昇が観察された。また、各期間に有意な差はみられなかった。

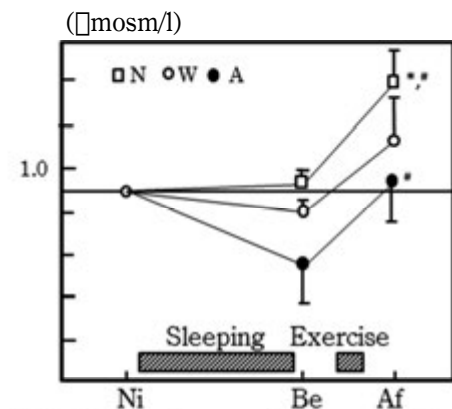


Fig.5. Relative changes of serum osmolality compared with data at Ni. (N:Water-free, W: Water, A: Alkaline water) Significant level: * $p<0.05$ compared with Ni, * $p<0.05$ compared with Be.

血液 pH の変動を Fig.6 に示した。pH は、全期ともに睡眠、運動によって低下する様子が確認された。W 期では有意差は見られなかったが、低下傾向を示し

た. N 期, A 期では有意な低下が確認された. 期間に有意な差は見られなかった.

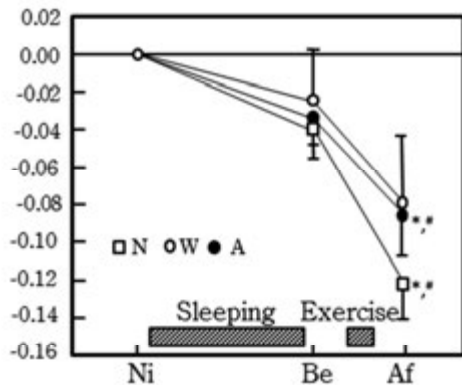


Fig.6. Relative changes of blood pH compared with data at Ni. (N:Water-free, W: Water, A: Alkaline water) Significant level: * $p<0.05$ compared with Ni, # $p<0.05$ compared with Be.

血中乳酸は, 睡眠前後ではいずれの飲料摂取時においても大きな変動は見られなかった. 起床後に行った運動負荷実験前後の乳酸値の差を Fig.7 に示した. いずれの飲料摂取期においても運動負荷により血中乳酸濃度は増加を示し, Af 時と Be 時との差は N 期, W 期, A 期の順であった. N 期と A 期の間には有意な差が見られた ($p<0.05$).

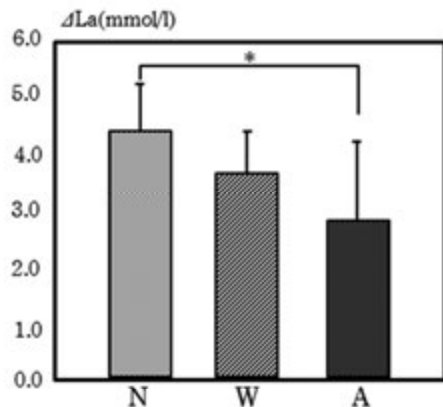


Fig.7. Relative changes of blood lactate. Data were represented the means $\pm$ SD of six subjects as the difference between before and after exercise. (N:Water-free, W: Water, A: Alkaline water) Significant level: * $p<0.05$.

収縮期血圧, 拡張期血圧, APG-index の結果を Fig.8 に示した. 収縮期血圧は N 期では睡眠後に上昇する傾向がみられ, W 期, A 期ではむしろ下降する傾向が観察された. 起床後の運動負荷により N 期で

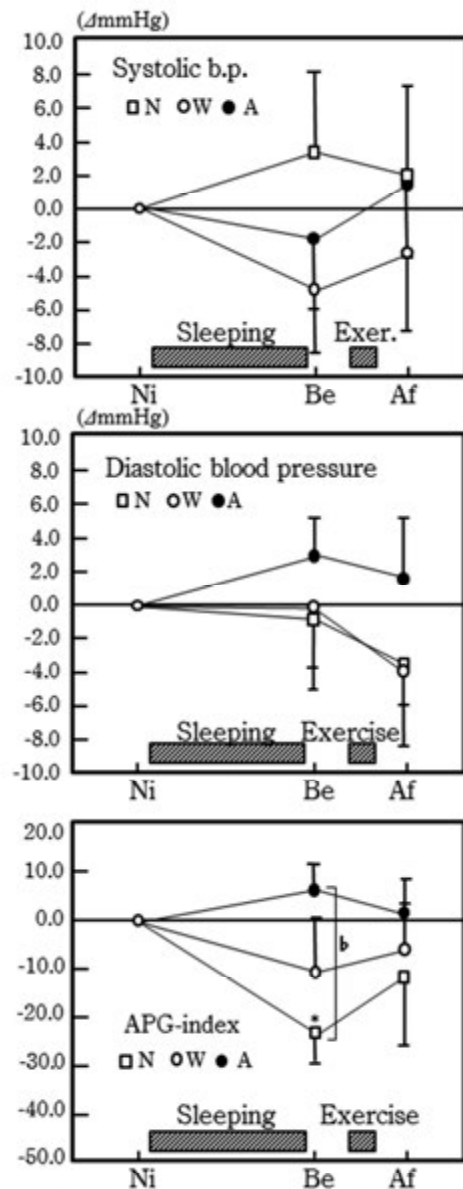


Fig.8. Relative changes of systolic blood pressure, diastolic blood pressure and APG-index compared with data at Ni. (N:Water-free, W: Water, A: Alkaline water) Significant level: * $p<0.05$ compared with Ni. † $p<0.05$ between N and A trials.

は減少, W 期, A 期では上昇する様子が確認された. しかし, いずれも有意な変動はみられず, 期間にも有意な差はみられなかった. 拡張期血圧に関しては, 睡眠後に N 期, W 期においてはほとんど変動が見られなかったが, A 期においては上昇傾向を示した. 起床後の運動負荷では全期とも減少の様子が確認された. しかしながらいずれの期においても有意な変動はみられず, 各期の間においても有意な差はみられな

かった。APG-index は睡眠の前後で A 期が上昇, 他期が減少する傾向が観察された。また, 逆に運動によって A 期では減少, W 期, N 期では上昇する様子が確認された。N 期では睡眠によって有意に減少する様子が観察され, W 期では減少傾向がみられた。運動によっては, W 期, N 期ともに上昇傾向が観察された。また, Be 時では A 期と N 期の間に有意な差が観察された。

考察

睡眠時には発汗および呼吸等により水分の損失があり, 起床時に軽度の水分不足, 血液の濃縮等が起こる。また, そのような状況下で急激な活動を行うことは生体にとってかなり負担の大きい状態であると考えられる。今回, 水分非摂取(N 期), 水道水摂取(W 期)およびアルカリイオン水摂取(A 期)の 3 期を設けて比較したが, A 期は起床時においても体内水分量減少の抑制効果が他の期に比べよく示されたと考えられる。血中水分レベルの変動もその傾向を支持する結果であると考えられる。その後の運動負荷により N 期では大きな低下が観察されたが, A 期は他の期に比べ軽度には抑えられる傾向が示された。血清浸透圧は A 期において減少を示した。その後の運動負荷時には 3 条件ともほぼ同じ傾向で高まる様子を示したが, A 期は就寝前 Ni 時の値に戻るにとどまった。血清浸透圧は血中の水分含量の様相を示す指標とも考えられることから, アルカリイオン水摂取が睡眠時の水分損失を軽減する可能性が示唆されたものと推察される。

また, pH では全期とも睡眠, 運動によって低下する傾向を示し, N 期, A 期ではその変動は有意であり, W 期では減少傾向が示された。しかしながら, N 期の変動は, 他期に比べより有意であることが示されており, アルカリイオン水摂取に限らず, 運動前に水分摂取をしておくことにより, 運動による pH 低下を抑制する効果が望めることが示唆される。血中乳酸値は, 全期ともに運動で上昇したが, N 期, W 期では有意な変動であり, A 期では上昇傾向が示された。また, A 期と

N 期の差は有意であったことも示された。そして, また, 体水分量(%)の結果をみれば, 全期とも減少する様子は確認されたものの, N 期, W 期では減少傾向または有意な減少が確認されており, A 期のみ有意ではなかった。生体内の様々な代謝は, 生体内の水分を溶媒とした化学反応として行われる。A 期では他期に比べて生体内水分の充足状態が示されており, より円滑な反応がなされたことが示唆される。その結果, 乳酸の還元が円滑に行われ, 血中乳酸値の上昇が抑制されたものと推察される。

睡眠時の水分損失は避けられず, 就寝時, あるいは起床時に補給することは一般的に推奨されている。起床時にも少なからず水分不足の状態であれば循環機能に影響を及ぼし, 生理的変動を示すと考えられる。佐野ら^{9, 10)}によれば, APG-index は末梢の血液循環能力を示すものであるが, この指数は年齢, 疾病などと密接に関係があるとされており, 健康な成人の場合は血液の状態がその数値に影響を与えることになる。つまり, 血中水分や浸透圧の変動は大きく影響すると考えられる。今回, アルカリイオン水摂取時は APG-index が増加する傾向にあり, 水分非摂取時は有意に低下した。この結果はアルカリイオン水摂取による血中水分の確保による循環機能の亢進がもたらしたものと考えられる。血圧については有意な変動が見られなかったが, これは本研究における被験者は健康な大学生であり, もともと血圧に異常のある者でなかったことが影響している可能性が考えられる。血圧に対する影響を調査するためには, 比較的血圧が高い集団を対象に研究を行う必要性があったと考えられる。

本研究において, 睡眠時の水分損失やその後の活動による水分損失の抑制傾向, またそれによる循環機能への好影響が示唆されたこと, 就寝前に良好な水分補給状態をつくることによる代謝・循環系機能の円滑化による快適な睡眠の獲得が考えられることから就寝前にアルカリイオン水を摂取し, 良好な生体内水分量を維持することにより, 快適な睡眠及び, 起床後の活動を補助する効果が得られるものと考えら

れる。

しかしながら本研究においては多くの項目において傾向を示すにとどまり、有意な結果が得られなかった。これは、本研究における被験者が6名と少数であったことが影響したものとも考えられる。今後さらに被験者を増やして再度検討することが必要であると考えられる。しかしながら、これまでに本研究と類似した研究は見られず、その傾向だけでも示されたことは意義のあることであると考えられる。

結論

本研究は、就寝時の水分摂取の有無およびその種類が睡眠時の体水分損失および起床後の活動の生体に及ぼす影響について検討した。健康な大学生6名を対象とした。実験期は摂取飲料種により水分非摂取期(N期)、水道水摂取期(W期)、アルカリイオン水摂取期(A期)の3期とした。睡眠時の体水分の損失、血中水分量、血漿浸透圧、血液pHの動向から水分非摂取では体水分の維持には困難さをうかがわせる結果が多く認められ、一方、アルカリイオン水摂取では他期に比べ睡眠時の体水分損失が比較的軽度に維持され、また、起床後の運動負荷時においても血液pHの低下(酸性化)および血中乳酸値の上昇も比較的強く抑制されていた。また、末梢循環機能の指標であるAPG-indexも比較的維持されていた。これらのことから、生体内水分量の保持および循環機能の維持に就寝前のアルカリイオン水摂取が効果的であることが示唆された。

謝辞

本研究は日本スポーツ整復療法学会研究助成により行われた。また、実験にあたり指導、協力いただいた千葉大学の磯辺啓二郎教授および被験者として協力していただいた諸氏に感謝の意を述べたい。

参考文献

- 1) 岩本俊彦 (2007) 高齢者一脱水が重大な血栓症を招く 起床時の水分摂取を指導(シンポジウム 脱

水症の管理), 日経メディカル 404: 121-124

- 2) 田代博一, 北洞哲治, 藤山佳秀, 馬場忠雄 (2000) 慢性下痢におけるアルカリイオン水の有効性の臨床的検討-double blind placebo control study による-, 日本消化吸収学会「消化と吸収」23(2): 52-56
- 3) 田代博一, 北洞哲治, 藤山佳秀, 馬場忠雄, 糸川嘉則 (1995) アルカリイオン水の基礎臨床試験, 機能水シンポジウム'95 京都大会予稿集: 20-21
- 4) 内藤裕二, 吉川敏一, 高木智久, 八木信明, 松本希一, 吉田憲正, 近藤元治 (1999) アルカリイオン水の胃粘膜保護作用と胃酸分泌, 胃分泌研究会誌 31: 69-72
- 5) 鈴木正彦, 仁科正美, 倉持知也, 山川由紀子, 鈴木政美 (1995) アルカリイオン水を飲用させた高血圧自然発症ラットにおけるエナラプリルの降圧作用, 医学と生物学第 131(6): 281-286
- 6) 鈴木政美, 鈴木正彦, 仁科正美, 富永信子 (2000) アルカリ性水長期飲用によるマウス成長過程への影響, 第7回機能水シンポジウム 2000 東京大会プログラム
- 7) 早川享志 (1999) アルカリイオン水の機能と応用, FOOD STYLE21 食品化学新聞社 3(2): 49-55
- 8) 吉川敏一, 内藤裕二, 近藤元治 (1999) アルカリイオン水の胃機能に及ぼす影響と胃粘膜障害抑制作用, FRAGRANCE JOURNAL 3月号: 14-17
- 9) 佐野裕司, 片岡幸雄, 生山匡, 和田光明, 今野廣隆, 川村協平, 渡辺剛, 西田明子, 小内山博 (1985) 加速度脈波による血液循環の評価とその応用, 労働科学 61(3): 129-143
- 10) 佐野裕司, 片岡幸雄, 生山匡, 和田光明, 今野廣隆, 川村協平, 渡辺剛, 西田明子, 小内山博 (1988) 加速度脈波による血液循環の評価とその応用(第2報), 体力研究 68: 17-25

(受理 2018年2月10日)

第19回日本スポーツ整復療法学会大会 印象記

行田直人（帝京科学大学）

平成29年12月9～10日に明治東洋医学院専門学校（大阪府吹田市）にて、第19回日本スポーツ整復療法学会大会が開催された。大会特別シンポジウムでは、「スポーツ整復療法学の明日」と題し、明治国際医療大学の理事長谷口先生、鍼灸学部の伊藤先生および救急救命学科の植田先生より、柔道整復の教育の在り方、スポーツ現場



での鍼灸や救護体制について貴重なご講演内容であった。柔道整復施術の他、スポーツトレーナー関連で柔道整復の知識を活かすためにも、スポーツ科学や救急法の深い知識と理論を習得し、活躍の場を広げる必要性を感じた発表であった。また、トレーニング手法（特にメンタル面）のご発表（大儀見先生）や伝統的な柔道整復固定術について様々な固定材料の見本を展示するとともにご紹介頂き（力山先生）、足関節等のアライメント補正とテーピングの関係性（牛島先生）をこれまでの研究文献を踏まえた説明を頂くなど大変勉強になるご発表内容であった。柔術の活法・殺法について柔術の流派、柔道の歴史や「落ち」の生理的状态について（岩田先生）、スポーツ中の動きを分析しコンディショニングに活かす手法（中務先生）のご発表もこれまでの学会にないご講演内容であり、多くの学会員が聴講していた。

文部科学省の調査によると2020年東京オリンピックが開催されるにあたり、スポーツを行う人口が増加してきている。それに伴い、外傷が増えることが伺われる。「学校管理下における負傷・疾病発生件数」（独立行政法人日本スポーツ振興センター報告、平成28年）は、約100万件にのぼり、その内ほとんどが外傷である。学校管理下以外での外傷発生件数も多い報告があることを挙げてみると、スポーツ科学、スポーツ医学の知識が今後益々必



牛島先生の「足関節等のアライメント補正とテーピング」の講習を受けに来た熱心な若人たち。頑張れ！

要となってくる。日本スポーツ整復療法学会会員の先生方皆さんで、スポーツと柔道整復との関係性を改めて考える機会かと思われます。第20回の大会では、その様なテーマで企画しておりますので、多くの参加をお待ちしております。



役員会で協議中の増原会長、佐竹副会長、片岡理事長



理事会で討議をかわす理事の面々！



中務先生指導の動きの分析 皆さん熱心に実習中！



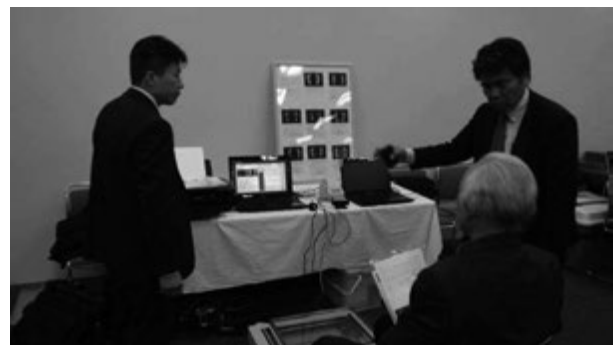
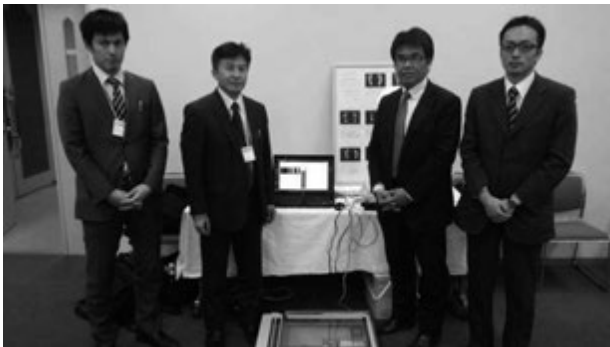
会議が終われば楽しい交流のひとつ！ さあ、語らいましょう！

おいしい料理を準備していただき、感謝！

今年も展示、ありがとうございます。JSSPOT 会員の皆様と情報交換をよろしくお願いします。



日本シグマックス株式会社 カスタムバランスインソールの展示 JSSPOT の会員も興味津々！



OA システムシャープ株式会社 「あしあとカルテ」の展示 足裏のスキャン映像でいろいろなデータを取得！



株式会社吉田養真堂 「クーリングパッチ」天然メントール使用、絶妙な爽快感が得られるそうです。



いつも明るく、笑顔で迎えてくれた受付担当の皆さん！



学舎の全景！ 近代的な建物で、設備バッチシ！

第20回日本スポーツ整復療法学会大会のご案内(第一報)

共通テーマ『2020年 東京オリンピック・パラリンピックに向けて ～日本人の健康を考える～』

1. 会期 : 平成30年10月20日(土)・21日(日)
2. 会場 : 東京海洋大学品川キャンパス 白鷹館(〒108-8477 東京都港区港南 4-5-7)
3. 交通 : 1) JR線・京品急行線「品川駅」下車、港南口より徒歩約10分
2) りんかい線「天王洲アイル駅」下車、徒歩約15分
3) 東京モノレール「天王洲アイル駅」下車、徒歩約10分

4. 日程 :

【大会前日:10月19日(金)】

16:00-17:00 役員会

17:00-18:00 理事会

18:00-19:00 新理事会 新理事会終了後、役員・理事・新理事懇談会

【大会1日目:10月20日(土)】 8:30 受付開始

9:00-12:10 一般発表

12:20-13:00 評議員会

13:20-14:20 特別講演「2020年を健康で迎えるための貯筋運動」

14:30-16:30 シンポジウム「柔道整復師の伝統と現在、未来」

16:50-17:50 20回大会実行委員会特別企画Ⅰ:市民公開講座

18:30- 懇親会

【大会2日目:10月21日(日)】 8:30 受付開始

9:00-10:00 一般発表

10:10-11:50 学生発表コンペ ※1

12:00-12:40 総会

13:00-15:00 実技ワークショップ「2020年を健康で迎えるためにできること」

15:10- 表彰式 ※1 ※2

学会開催期間中、「20回大会実行委員会特別企画Ⅱ:日本スポーツ整復療法学会20年の歴史」を展示コーナーにポスター掲示します。

※1 本学会学生会員及び一般学生を対象に「学生発表コンペ」を行います。発表方法は口頭及びポスター発表とし、それぞれ最優秀奨励賞各1名、奨励賞若干名を表彰いたします。

※2 本大会の一般発表における優秀な発表者を表彰いたします。部門は一般の部(40歳以上)と若手の部(40歳未満)の二部門で、一般の部では最優秀発表賞1名と優秀発表賞若干名、若手の部では最優秀奨励賞1名と優秀奨励賞若干名を表彰いたします。

※3 企画内容、演題名及び演者は変更となる場合があります。

第20回日本スポーツ整復療法学会大会へのご支援のお願い

日本スポーツ整復療法学会

会長 増原 光彦 (印略)

第20回学会大会

大会長 佐竹 弘靖 (印略)

貴社ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、ご依頼させて頂きました日本スポーツ整復療法学会は、スポーツ系(体育、アスレチックトレーナー)、柔道整復師、鍼灸師やその他医療職を対象とした学会です。これまでに19回の学会大会を開催し、多くの基礎研究や臨床研究発表を行ってまいりましたが、その度に企業あるいはご協力者の方々に大会号での広告掲載あるいは学会開催中の機器展示等の形でご支援を得て参りました。

本年は節目の20回目にあたり、「2020年東京オリンピック・パラリンピック」を共通テーマとして、東京海洋大学品川キャンパスにて開催することになりました。本大会におきましても多くの方々のご協力を仰ぎたく、ご案内させていただきました。

つきましては、この機会に是非、大会号への広告掲載、学会会場での機器(製品)展示等にご協力をお願い申し上げます。

末筆ながら貴社のますますのご発展を祈念いたしますとともに、今後とも本学会への多大なるご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

第20回日本スポーツ整復療法学会

共通テーマ「2020年 東京オリンピック・パラリンピック」

平成30年10月20日(土)・21日(日)

東京海洋大学品川キャンパス 白鷹館(〒108-8477 東京都港区港南4-5-7)

平成 29 年度日本スポーツ整復療法学会理事会・評議員会・総会議事録

平成 29 年度 日本スポーツ整復療法学会第1回理事会議事録

期日：平成 29 年 6 月 25 日（日）12:00～

会場：アワーズイン阪急会議室

出席者：（順不同、敬称略）：増原（会長）、原（副会長）、佐竹（副会長）、片岡（理事長）、村松（事務局長）、菊地、行田、草場、工藤、渋谷、住田、滝瀬、西島、林

委任状：岩本、加藤、草野、白石、千足

出席 14 名、定款により理事長より会の成立が宣言された。

会長挨拶 増原会長

議長：片岡理事長

1. 理事会開催に当たり、片岡現理事長より定款第 22 条により、出席者（委任出席あり）3分の2以上の為、理事会が成立する旨の知らせがあった。

審議事項の前に

質問：（滝瀬）学会開催地に関してメール会議ではなく緊急理事会を開くべきだと考える。なぜ開かなかったのか。

（片岡）理事会の承認を得て進めようとしたがうまくいかなかった。会長、副会長、理事長の幹部の意見をもとに関西支部の田邊先生に相談した。理事会では東北となっていたが、順番でいけば関西だった。

質問：（滝瀬）なぜ理事会を開かなかったか。理事会で承認するという手順を踏むべきだ。

（増原）集まることができないので、西日本の学会担当の理事に連絡をした。本来なら緊急理事会を開くことが大切だったと思う。このような状況になったのは初めてだった。今回の対応をご理解いただき、今回の件を反省して今後すすめていきたい。

（滝瀬）この問題は予算も含めて学会運営にかかわってくる。

（片岡）先生のご意見は最もだが、予算の面、時間の面、さまざまなことを勘案して今回の手続きとなった。ご理解いただきたい。

1. 審議事項

1) 平成 28 年度事業報告および決算報告について（村松）

- ・第 3 号の発刊は間に合わなかった。
- ・会費納入状況が悪い。
- ・通信運搬費が少ないのは、印刷業者がこれまで学生アルバイトが行ってくれた業務を行ってくれたことによる。
- ・国際交流・研究基金を 120 万円取り崩した。

質問：（滝瀬）決算に異論はないが、どうやって財源を増やすか議論しなければいけない。他学会はもっと会員がいる。学会誌を廃止して学会大会号を学会誌にしようかという提案を持ってきた。会長、理事長など執行部から会員を増やす提案があるべきだ。

（村松）今回予算案を 2 つ提出した。今年と来年の 2 年間をかけて立て直していただきたい。

質問：（滝瀬）医療系の大学教員を評議員にして会員を取り込んでいく、ホームページも変えるべきと思う。

(片岡) 今後も積極的に意見を出して欲しいとの話があった。

村松先生からの提案書が配られた

質問: (林) 学術研修委員会は具体的にはどういう活動しているのか。

(村松) 各支部で開催するものを本部で各支部に案内を送っている。学術研修委員会費はその経費。

意見: (西島) 会員を増やすには学会に魅力がなければならない。魅力がないから会員が減っている。スポーツに重点をおいて会員が興味を持ちやすい内容(研修会)を提示してはどうか。

(滝瀬) 村松先生はよい提案をしている。報告ではなく事務局から発信すべきではないか。支部から意見を求めるとか、それをまとめて今度の理事会で検討するとか、そういうことをしてほしい。メール審議でも構わないので、理事会で集約するための原案がないのが問題と考える。役割分担を行ってはどうか。

(増原) みんなの意見は共通していると思う。村松先生の意見にもある「小委員会で検討してたたき台をつくって議論」しなければ前に進まないと考える。

(村松) 抱え込みすぎて仕事をこなすのが精いっぱいなので発信ができなかった。反省している。20 年を契機に新しい委員会を立ち上げてはどうか。

意見: (工藤) オリンピックに関与できるというニュアンス・期待があつて学会に入会した。オリンピックは長野で終わり、学会員でオリンピックに関与したのは一人だけ。骨接ぎは伝承なので、その伝承が認められてオリンピックに帯同できたのだろう。しかし、AT としてはなかなか難しい。当時の小泉純一郎から「応急処置はなんら問題ない」との意見をもらった。東京オリンピックは日本財団がそうとうのめり込んで協力するはずだ。オリンピックへの関与に魅力を感じている人も多い。これも一つのセールスポイントになるのではないか。

(片岡) 会員が減少してきた原因は何かをはっきりさせないとだめだ。これまでやってきたことがすべて悪いのではない。

(原) この学会は柔道整復学とスポーツ医科学が融合している。会員によりキックバックがあれば会員が増える。柔道整復師が日ごろ悩んでいること、ほしい情報等、解決されるような学会なら会員が増えると考ええる。

意見: (滝瀬) 意見を求める土台がない。理事会で議論してもまとまらない。執行部の原案を事務局を通じて各支部に流してはどうか。

(草場) ホームページを利用しやすいものに変えて、さまざまな情報を発信してほしい。九州支部は最初 10 数名だった。支部活動をすることで会員が増え、会費が増えていった。各支部が支部の中でエネルギーを持てば、そのエネルギーにつられて入会する人がいると思う。

(林) 村松先生提案の将来検討委員会を設置するか、滝瀬先生のいう支部に投げてたたき台をつくり、次の理事会で議論すべき。

(片岡) ここは理事会だからここで議論すべきと考える。理事が色々な意見を言わないとどうにもならない。

意見: (行田) まずは、学会誌をホームページ上でダウンロードする方式にすれば良いのではないか。また会員限定にすべきかは今決められるのではないか。

* 審議の結果、下記の事項が承認された。

① 村松先生提案のホームページの修正について承認

② 学会誌を PDF 化し、少数を残して段階的に処分することを承認

2) 平成 30 年度事業計画案および予算案について(村松)

・1 案は平成 29 年度とほぼ変わらない案。会費納入を促進し、経費を削減する案。学会委託費を 500,000 円に削

減する案。

・2 案は当初から「国際交流・学術基金」から 100 万円を流用し、学会運営検討委員会を設置(予算 500,000 円)する案。

以下、意見・質問内容

(片岡) 来年は 20 回記念大会なので学会委託費 500,000 円は少なすぎるのではないかな。

(-) 内外関連学会との連携は具体的に案があるかな？ないなら削除してはどうか。20 回の委員会を立ち上げたらどうか。

(片岡) 突然関連がおこるかもしれないので項目を残したい。

(片岡) 構成員を考えると減退の一途である。

(西島) 具体的な数字が出ていれば各支部へ情報を流してほしい。そうすれば各支部でも検討ができる。

500,000 円は多いのではないかな。

(村松) 余ったら基金に返却する。

(滝瀬) 学会運営検討将来検討委員会という名称で検討してはどうか。

(西島) 予算を作るときに財務委員会で検討しないのが問題ではないかな。

(菊地) 事業費の「学術研修委員会」と「学会運営検討委員会の(学術研修の運営)」は内容が被っていないかな。

(村松) (学術研修の運営) は将来的に運営を検討するという意味で案をお知らせした。

* 審議の結果、全員一致で第 2 案を採用することが決定

「学会運営検討委員会」について

(片岡) 学会運営検討委員会を発足させるとしたら具体的にどのようにすすめるかな。

(菊地) 30 年度の予算案だとすると 29 年度は経費がないのかな。

(村松) 提案に書いてある。

(草場) すぐに進める方法はないかな。

(増原) 委員会のメンバーをどうするべきかな。理事だけで構成するのか、一般会員から有志を推薦するかな。

(滝瀬) 委員長は執行部が行うべき。委員に各理事が入る。

(片岡) 理事が分担すべきではないかな。

(増原) 村松先生に世話人になっていただき、執行部と相談して委員を選出して、その中で委員長を決めてはどうか。

* 審議の結果、村松先生が委員長に就任し、その他のメンバーを選出することに決定

休憩 14:15-14:25

3) 第 19 回(2017、関西支部)学会大会進捗状況について

田邊実行委員長、林理事から資料説明があった。

開催日:平成 29 年 12 月 9 日～10 日、テーマ「温故知新」

・評議員会の裏で関西支部総会を実施(会員用プログラムには記載せず)

・6 月に開催している関西支部研修会を 12 月 9 日(土)13:00-14:30 に「関西支部主催教育セミナー」として実施。

・例年 12 月第 2 日曜日に JATAC 大阪支部研修会を実施していたので、12 月 10 日(日)9:00-12:00 に JATAC 大阪主催で講演又はワークショップを開催し、本学会との共催とする。

・ホテルは関西支部事務局補佐(泉)まで9月末までに各自連絡する。

以下、質問・意見、回答など

(行田) 例年市民公開講座が入っているが今年はないのか。

(田邊) 当初の予定は公開講座と特別講演(基礎医学)を企画していた。また学生参加も検討していたが、予算とスペースの関係で断念した。ご容赦いただきたい。

(行田) 「JATAC 大阪主催」という言い方でいいのか。

(田邊) この理事会の場で決めていただきたい。

(林) JATAC 大阪で話し合いが終わっていないのでこの場では名称(主催なのか共催なのか等)を決定できない。

(草場) 大会全体を JATAC 大阪と共催するのか

(田邊) この場で決定していただきたい。

(林) 講習会の文言(共催・主催?)はこれから決めることで承認していただきたい。

(行田) 参加費についてはどうするのか。

(田邊) 参加費も含めて理事会で決めていただけると動きやすい。

(林) まだ JATAC との話し合いが終わっていないので原案を提案できない。

* 審議の結果、下記の内容を承認

参加費は JSSPOT 関西支部と JATAC 大阪で相談する。その結果を理事会で報告。

4) 第20回(2018)学会大会開催地について

(滝瀬) 記念大会でイベントをするのか。

(片岡) 多少イベント的要素が入っても良いのでは。

(佐竹) 関東支部は受けるつもりでいるが、理事会の決定に従いたい。

* 審議の結果、全員一致で関東支部が主幹に決定

その他、質問等

(草場) 会場は想定しているのか。

(佐竹) 東京海洋大学をベースに考えている。

(滝瀬) 関東の養成大学で行うのが良いのではないかと。大学側もメリットがあるのではないかと。

(佐竹) 全国会員のアクセスの良さを考慮している。

(滝瀬) 東京オリンピックもあるので JIS を使ってはどうか。

(佐竹) JIS は手続きが難しいが、記念大会であるので交渉してみたい。またオリンピックをテーマとして検討したい。

(片岡) 関東支部で事業・予算案を立てて次回理事会で提案して欲しい。

5) 役員選出細則について(片岡)

・執行部から資料説明。

(増原) 資料の「原案」は佐竹先生から提出されたものであるが、現在の定款に沿わない箇所がある。そこで、片岡副会長が定款に合わせた形で修正したのが「改正案」である。議論の流れを確認するために両方のせたが、右側の「改正案」をたたき台として検討してほしい。

(草場) 九州と中四国を分けるのか分けないのか決めるべき。

* 持ち帰って検討し、12月の理事会で審議、総会で承認する

以上

議長 理事長 片岡幸雄 印省略

議事録著名人 理事 村松成司 印省略

議事録著名人 理事 菊池俊紀 印省略

平成 29 年度 日本スポーツ整復療法学会 第 2 回理事会議事録

日時:2017 年 12 月 8 日(金)17:05～19:00

場所:明治東洋医学院専門学校(大阪)本校舎 2F 第 2 会議室

出席者:増原、佐竹、片岡、工藤、加藤、草野、白石、行田、千足、住田、岩本、林、滝瀬、草場、西島、村松、渡辺
(敬称略)、千足(記録)、委任(欠席)3 名

理事会に先立ち、定足数の確認および議事録署名人(白石、住田)の選出が行われた。

審議事項:

1. 平成 28 年度事業報告

総会資料第 1 号議案に基づき、村松事務局長より事業報告(学会大会開催、機関誌の発行、4 回の学術研修会)があり、了承された。

2. 平成 28 年度決算報告

総会資料第 2 号議案に基づき、村松事務局長より平成 28 年度決算報告があり、了承された。

年会費納入状況が芳しくないこと、収入に国際交流・研究基金積立金から 120 万円の流用が生じていること、管理費のうち旅費交通費の支出が大きくなったこと、監査の時期について変更が必要であるとの指摘があったことについて説明がなされた。

3. 平成 30 年度事業案

総会資料第 3 号議案に基づき、村松事務局長より平成 30 年度事業案について説明があり、了承された。

4. 平成 30 年度予算案

総会資料第 4 号議案に基づき、村松事務局長より平成 30 年度予算案について、ホームページ管理費の増額が含まれていることが説明された。予算案に含まれている年会費納入予算について、種々の質疑応答がなされたが、年会費督促の促進、予算をベースにしないと事業が実施できないこと、30 年度は過年度を含んで年会費が回収できる見込みがある等の意見から、予算案は了承された。

5. 役員の選出に関する規則について

役員の選出に関する規則(案)に基づいて、片岡理事長より説明がなされた。

定款には「選出細則は別に定める」と記載されているが、これまで選出細則が定められずに選挙を実施してきた状況を改善しようとするものである。内容としては、基本的に立候補制を維持すること、地区の会員数に応じた比例定数とすることが記載されており、方向性としては承認された。選出細則(案)の文章については、佐竹副会長を中心とした理事会組織で継続的に改善、審議して、次の選挙実施方法に反映させるとともに、学会定款と同様に学会誌に掲載したいことを総会で会員に説明を行うこととした。

6. その他

- ・ 増原会長より、第19回大会開催にあたって、田邊支部長をはじめ明治東洋医学院専門学校(大阪)を中心とした関西支部の皆様にご苦勞をおかけしたことについて御礼とお詫びの発言があった。
- ・ 増原会長より、学会の将来計画委員会を組織したいとの発言がなされた。
- ・ 佐竹副会長より、日本スポーツ整復療学会第20回記念大会が、2018年10月19日~21日(19日は役員会・理事会)、東京海洋大学を会場として、「東京オリンピック・パラリンピック」をメインテーマとして実施する予定であることが説明された。
- ・ 草野理事から、2020年に柔道整復師資格が誕生して100周年を迎えるので、学会としても関連した事業を実施する準備を進めてほしいとの発言があった。
- ・ 片岡理事長より、評議員会の進め方について、学会定款に示されている「理事会の諮問に応じ審議し助言する」方向でお願いしたいとの発言があった。
- ・ 片岡理事長より、任期の途中ではあるが、理事長を辞退したいとの発言がなされた。理事会としては、役員会で継続審議していくことが適切であろうとの方向性が確認された。

以上

議長 理事長 片岡幸雄 印省略

議事録著名人 理事 白石 聖 印省略

議事録著名人 理事 住田卓也 印省略

平成29年度日本スポーツ整復療学会 評議員会議事録

日時:平成29年12月9日(土)12:15~12:45

場所:明治東洋医学院専門学校 33号室

出席者:27名、委任状18名

司会:村松成司事務局長

開会:増原光彦会長より開会が宣言された。

〈議事関係事項〉

- ・ 定款第5章、第24条に基づき定足数の確認が行われ、評議員会の成立が承認された。
- ・ 議長団の選出が行われ、森 経介評議員(関西地区)、小野寺恒巳評議員(北海道地区)が選出された。

- ・ 議事録署名人の選出が行われ、服部洋児評議員(東海地区)、荒井俊雅評議員(関東地区)が選出された。

〈審議事項〉

1) 第1号議案:平成28年度事業報告

村松成司事務局長より、資料(抄録 94-95 頁)に基づき、学会大会・機関誌の発行及び学術研修会等について説明があり、審議の結果、原案通り承認された。

2) 第2号議案:平成28年度決算報告

村松成司事務局長より、資料(抄録96頁)に基づき、平成28年度収支決算報告があり、収入は2,783,670円、支出は2,743,112円、差引40,558円、差引額は次年度の繰越金となること、収入については会員数の減少と年会費の未納等により減額となったこと、支出については、印刷会社の変更により印刷製本費が減額となった旨の説明があり、渡辺英一監事から監査報告の説明がなされ、審議の結果、原案通り承認された。

3) 第3号議案:平成30年度事業案

村松成司事務局長より、資料(抄録98頁)に基づき、第20回大会(期日:平成30年10月20日・21日、会場:東京海洋大学、関東地区主管にて開催予定)及び機関誌の発行、学術研修会の開催について提案説明がなされ、原案通り承認された。

4) 第4号議案:平成30年度予算案

村松成司事務局長より、資料(抄録99頁)に基づき、平成30年度予算案について提案説明がなされ、収入については、年会費の納入方法について振込用紙の配布方法を配慮し収入の確保に努めること、支出については、ホームページの充実をはかるため、通信費が若干の増額となった旨の説明があり、審議の結果、原案通り承認された。

5) 第5号議案

増原光彦会長より、現在理事の選出は立候補制となっているが、一部の地域に理事が集中し、会員に対する役員の数アンバランスとなっていること、今後は各地区の会員数に応じた役員定数を定め立候補・選出する為に、次期選挙に向け定款施行細則改訂を旨とした提案説明があり、村松成司事務局長より補足説明がなされ、審議の結果、原案通り承認された。

閉 会:増原光彦会長

議 長 理事長 片岡幸雄 印省略

議事録署名人 評議員 荒井俊雅 印省略

議事録署名人 評議員 服部洋児 印省略

平成29年度 日本スポーツ整復療学会総会議事録

日 時:平成29年12月10日(日)12:00~13:00

場 所:明治東洋医学院専門学校 2F 講堂

出席者:25名、委任状75名

司会:村松成司事務局長

開会:増原光彦会長より開会が宣言された。

〈議事関係事項〉

定款第5章、第25条に基づき定足数の確認が行われ、評議員会の成立が承認された。

議長団の選出が行われ、森 経介正会員(関西地区)、今井裕之正会員(北海道地区)が選出された。

議事録署名人の選出が行われ、大木琢也正会員(関西地区)、河上俊和正会員(関西地区)が選出された。

〈審議事項〉

3) 第1号議案:平成28年度事業報告

村松成司事務局長より平成28年度学会大会・機関誌の発行及び学術研修会等について説明があり、審議の結果、原案通り承認された。

4) 第2号議案:平成28年度決算報告

村松成司事務局長より平成28年度収支決算報告があり、収入については会員数の減少と年会費の未納等により減額となったこと、支出については、印刷会社の変更により印刷製本費が減額となった旨の説明があった。渡辺英一監事から監査報告の説明がなされ、審議の結果、原案通り承認された。

3) 第3号議案:平成30年度事業案

村松成司事務局長より、第20回大会開催予定及び機関誌の発行、学術研修会の開催について提案説明がなされ、原案通り承認された。

4) 第4号議案:平成30年度予算案

村松成司事務局長より平成30年度予算案について提案説明がなされ、収入については、年会費の納入方法について振込用紙の配布方法を配慮し収入の確保に努めること、支出については、ホームページの充実をはかるため、通信費が若干の増額となった旨の説明があり、審議の結果、原案通り承認された。

5) 第5号議案

村松成司事務局長より現在理事の選出は立候補制となっているが、地区所属会員に対する役員の数の不均衡になっていることから、今後は各地区所属会員数に応じた役員定数を定め、次期選挙に向け定款施行細則改訂を旨とした提案説明があった。増原光彦会長より、さらに補足説明がなされ、審議の結果、原案通り承認された。

閉会:増原光彦会長

議長 理事長 片岡幸雄 印省略

議事録署名人 正会員 大木琢也 印省略

議事録署名人 正会員 河上俊和 印省略

日本スポーツ整復療法学会定款

平成11年5月1日施行

平成12年10月30日改訂

平成15年10月18日改訂

平成19年10月21日改訂

第1章 総則

- 第1条 本会は日本スポーツ整復療法学会という。英文名を The Japanese Society of Sport Sciences and Osteopathic Therapy(略称 JSSPOT)とする。
- 第2条 本会は事務局を理事長の所在地に置く。
- 第3条 本会は評議員会の審議を経て理事会および総会の議決により支部を置く。

第2章 目的および事業

- 第4条 本会はスポーツ医科学、柔道整復学および関連諸科学に関する学際的研究とそれらの情報交換を行い、スポーツ整復療法学の構築ならびにその発展を図ることを目的とする。
- 第5条 本会は目的を達成するために次の事業を行う。
- 1)研究発表会ならびに学術講演会等の開催
 - 2)学会誌ならびに学術図書等の刊行
 - 3)内外の関連学会との交流
 - 4)その他目的を達成するための必要な事業

第3章 会員

- 第6条 本会の会員は次のとおりとする。
- 1)正会員社会人であってスポーツ整復療法に学問的関心を持つ個人
 - 2)学生会員学生であってスポーツ整復療法に学問的関心を持つ個人
 - 3)賛助会員本会の事業に賛助する法人
 - 4)講読会員スポーツ整復療法学研究の講読のみを希望する個人および法人
- 第7条 本会に正会員として入会しようとする者は正会員1名の推薦を得て会長宛に入会申込書を提出し理事会の承認を得ることとする。但し、学生会員の入会は正会員1名の推薦でよいものとする。
- 第8条 会員は以下に定めた入会金および年会費の支払いを義務とする。
- | | | |
|-----|--------|------------------|
| 入会金 | 1)正会員 | 2000 円 |
| | 2)学生会員 | 0 円 |
| | 3)賛助会員 | 2000 円 |
| | 4)講読会員 | 0 円 |
| 年会費 | 1)正会員 | 8000 円 |
| | 2)学生会員 | 5000 円 |
| | 3)賛助会員 | 一口 8000 円(何口でも可) |
| | 4)講読会員 | 8000 円 |
- 第9条 会員が退会しようとするときは、退会届を会長宛に提出しなければならない。
- 第10条 会員が次の各項に該当するときは会長は理事会の議決を経て除名することができる。

- 1) 本会の名誉を著しく傷つけ本会の目的に違反する行為があったとき
- 2) 本会の会員としての義務を怠ったとき

第4章 役員、評議員、顧問および相談役

「役員」

第11条 本会に次の役員を置く。

- 1) 会長 1 名、副会長 2 名、理事長 1 名および理事を含め 20 名以内
- 2) 監事 2 名
- 3) 上記の役員の他、会長は若干の役員を指名することができる。

第12条 役員の選出および承認は下記のとおりとする。

- 1) 役員は立候補により正会員の中から選出する。
- 2) 会長、副会長および理事長は理事の中から互選し総会で承認されなければならない。
- 3) 選出細則は別に定める。

第13条 役員の業務は下記のとおりとする。

- 1) 会長は本会の業務を総理し本会を代表する。
- 2) 副会長は会長を補佐し会長が欠けたときその職務を代行する。
- 3) 理事長は理事会を代表する。
- 4) 理事は理事会を組織し、本会の定款に定められた事項等を議決し執行する。
- 5) 監事は本会の業務および財産管理の業務の監査を行う。

第14条 役員の任期は 3 年とし再選を妨げない。役員の退任に伴う後任役員の任期は現任者の残任期間とする

第15条 役員が下記の項目に該当するとき、理事会の 4 分の 3 以上の議決によりこれを解任することができる。

- 1) 心身の故障のため職務の執行に耐えられないと認められるとき
- 2) 役員としてふさわしくないと認められるとき

第16条 役員は無給とする。

「評議員」

第17条 本会に評議員 50 名以内を置く。

第18条 評議員は北海道地区、東北地区、関東地区、北信越地区、東海地区、関西地区、中国・四国地区および九州地区から比例配分数を投票により選出し総会で承認する。なお選出細則は別に定める。

第19条 評議員は評議員会を組織し、本会の定款に定める事項の他、理事会の諮問に応じ審議し助言する。

第20条 評議員は第 14 条、第 15 条および第 16 条を準用する。

「顧問および相談役」

第21条 本会に顧問および相談役を置くことができる。理事会の議決を経て会長が委嘱する。

第5章 会議

「理事会」

第22条 理事会は毎年 2 回会長が召集する。但し理事の 3 分の 1 以上から開催を請求されたとき、または理事長が必要と認めたときはこの限りでない。理事会の議長は理事長とする。

- 2) 理事会は定数の 3 分の 2 以上の出席がなければ開催し議決することはできない。ただし委任状をもって

出席とみなす。

3)議決は出席者の過半数とし、可否同数のときは議長が決定する。

第23条 理事会は各種委員会を設置することができる。

「評議員会」

第24条 評議員会は毎年1回会長が召集する。但し会長が必要と認めたときはこの限りでない。評議員会の議長は評議員の互選とする。

2)評議員会は定数の2分の1以上の出席がなければ開催し議決することはできない。但し委任状をもって出席とみなす。

3)議決は出席者の過半数とし、可否同数のときは議長が決定する。

「総会」

第25条 総会は正会員で構成し、毎年1回会長が召集する。但し正会員の3分の1以上から開催を請求されたときまたは会長が必要と認めたときはこの限りでない。総会の議長は正会員の互選とする。

2)総会は定数の10分の1以上の出席がなければ開催し議決することはできない。但し委任状をもって出席とみなす。

3)議決は出席者の過半数とし、可否同数のときは議長が決定する。

第26条 総会は次の事項を議決する。

- 1)事業計画および収支予算
- 2)事業報告および収支決算
- 3)財産目録および貸借対照表
- 4)その他必要事項

第6章 資産および会計

第27条 本会の資産は次のとおりとする。

- 1)入会金および年会費
- 2)寄付金
- 3)その他の収入

第28条 本会の会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

第7章 定款の変更

第29条 本会の定款の変更は評議員会の審議を経て、理事会および総会のそれぞれ4分の3以上の議決を経なければならない。

第8章 補足

第30条 本会の定款の施行細則は評議員会の審議を経て理事会および総会の議決を経なければならない。

付 則

第4章の規定にかかわらず、本会の設立当初の役員および評議員の任期は平成13年3月31日までとする。本会の定款は平成11年5月1日より施行する。

「スポーツ整復療法学研究」寄稿規約

1. スポーツ整復療法学研究は、日本スポーツ整復療学会の機関誌で、「総説」「原著論文」「症例研究」「研究資料」「活動報告」「教育講座」「学会通信」「会員動向」等を掲載する。
2. 本誌への寄稿は原則として、共著者を含めて日本スポーツ整復療学会正会員に限る。内容はスポーツ整復療法学の研究領域における「総説」「原著論文」「症例研究」「研究資料」および「活動報告」で、未発表で完結したものに限る。
3. 論文等を寄稿する際は「執筆要領」に従って作成する。
4. 「総説」「原著論文」「症例研究」「研究資料」および「活動報告」の掲載に際し、その採否、修正の要求、掲載順位の指定および校正(初校は著者)などは編集委員会が行い、編集委員長名で著者に連絡する。
5. 投稿する場合は別紙投稿申請書に必要事項を記入の上、原稿送付前にメール添付ファイルか、FAX で送付してください。投稿原稿は書留便で、封筒の表に「スポーツ整復療法学研究投稿原稿」と朱書きし、オリジナル1部とコピー2部(図表を含む)を学会事務局宛に送る。掲載が決定した後に、最終原稿を入力した記録媒体(USBもしくはCD)を提出する。ファイルはワード、一太郎、TXT形式のいずれかと、PDFファイルの2種類とする。提出原稿および記録媒体等は原則として返却しない。
6. 寄稿に際し、「総説」「原著論文」および「症例研究」は1万円、「活動報告」および「研究資料」は5千円を審査料として学会事務局の郵便振込口座に振り込み、振込用紙のコピーを同封する。振込用紙には必ず内訳を記入する。
7. 別刷は30部までを無料とし、それ以上は著者の負担とする。

論文等投稿時には特に以下のことを確認願います。

①論文審査申込書の送付	用紙は機関誌またはHPから入手可能。 審査種別、学会員資格(共同研究者全員)、所属、連絡先など必要事項を記入すること。Faxもしくは添付ファイルで事務局へ送付。
②論文審査料の振込 (ゆうちょ振替)	振込証明書のコピーを作成。振込証明書のオリジナルは投稿者保存、そのコピーを③の原稿とともに事務局へ送付。
③原稿(図表を含む)の送付	原稿は原則3部作成し、②のコピーを同封して事務局へ送付。しかし、今後作業の効率化のためメールの添付ファイルによる投稿に移行することも検討しており、現在試行期間としてどちらも対応している。②はスキャンして添付。
①②③を確認して、論文審査に入る。	

「執筆要領」

A 「総説」「原著論文」「症例研究」および「研究資料」

1. 「総説」「原著論文」「症例研究」および「研究資料」は図表を含めて刷り上がり 8 ページ以内を原則とする。超過したページについては著者負担とする(料金は別に定める)。
2. 原稿は必ずワードプロセッサを用いて、新かな使い、常用漢字を用いて、A4 版用紙に横書き印刷する。
3. 外国語言語は欧文フォントを使用する。ただし、日本語化した語はカタカナ標記(全角)を使用してもよい。数字は算用数字、単位符号は原則として CGS 単位を用い、mm, sec, cm, ml, μ g などとする。圧の単位は mmHg を用いてもよい。
4. 図(写真)表は必要最低限にとどめ、A4 版用紙に各 1 枚に収載し、番号(例:Table.1, Fig.1、または表 1、図 1)とタイトルを付け、且つ英文併記が望ましい。図(写真)表の挿入場所を本文原稿の余白に朱書きする。なお、製版が不相当と認められる図表は書き変えることがある。その際の実費は著者負担とする。
5. 和文論文原稿の形式は以下の順に従う。
 - a) 原稿の第 1 ページに「表題」「著者名」「所属名」「キーワード 5 個以内」「原稿の種類」「別刷請求部数」「連絡先:住所、氏名、電話 FAX 番号、E-mail」等を記載する。
 - b) 本文は目的(緒言)、方法、結果、考察、結論、引用文献および図表(写真)の順とし、印刷は「10 ポイント、23 文字 X38 行の 2 段組み、総文字数 1748 字」程度で行う。改行は冒頭 1 字を下げる。
6. 和文原稿には英文のタイトル、著者名、所属名、キーワードを必ずつける。また、英文抄録(400 語以内)をつけることが望ましい。英文は専門家のチェックを必ず受けること。
7. 英文原稿には原則として、上記に準じ、和文抄録をつける。
8. 引用文献は主要なものに限り 30 編以内とする(総説の場合は制限なし)。文献は本文の引用順に引用番号を付し(半角片カッコ内に半角数字で記入する。例:片岡ら 1)によれば・・)、引用番号順に記載する。
 - a)雑誌の場合は、全著者名、年号、表題、雑誌名、巻数、頁一頁の順に記す。
 - 1) 佐野裕司、白石聖、片岡幸雄(1998)背側筋群の強化を目的とした体幹筋運動が腰筋の圧痛に及ぼす効果、柔道整復・接骨医学 7(1):3-12
 - 2) Kataoka,K., Sano,Y., Imano,H., Tokioka,J. and Akutsu,K. (1993) Changes in blood pressure during walking in the elderly persons with hypertension, Chiba Journal of Physical Education.17:33-38
 - b)単行本は全著者名、発行年、標題、書名、編集者名、版数、発行所、発行地、引用頁の順に記す。
 - 1) 熊谷秋三:誤った運動法(1993)健康と運動の科学、九州大学編、初版、大修館書店、東京:209-211
 - 2) Expert Committee of Health Statistics (1995) Report of the Second Session, WHO Technical Report Series, 25

B 「活動報告」

図表写真を含め 2 ページ(400 字原稿用紙 8 枚)以内を原則とし、上記の執筆要領に準じて作成する。

「スポーツ整復療法学研究」論文投稿確認書

・申込はこの用紙をコピーして必要事項を記入の上、事務局へFAXもしくは添付ファイルで転送して下さい

投稿年月日(西暦) 年 月 日(投稿者記入)

論文タイトル (日本語)	
論文タイトル (英語)	
分野 (審査希望分野)	a)整復療法 b)整復工学 c)スポーツ療法学 d)原理・倫理 e)評価 f)その他 ()

投稿者氏名				会員確認(該当項目に○を付ける) ・会員 ・入会手続き中
所属				
連絡先 (資料送付先)	〒			
	電話		FAX	
	E-mail			
共同研究者 (不足の場合は別紙に書き 加えて下さい)	氏名	所属	会員確認	
			・会員 ・入会手続き中	
			・会員 ・入会手続き中	
			・会員 ・入会手続き中	
			・会員 ・入会手続き中	
			・会員 ・入会手続き中	
			・会員 ・入会手続き中	
別刷部数	部 (30部までは無料、学会負担)			
送付資料確認	・原稿3部(コピー可) ・投稿料振込確認(コピー可) ・その他、同封した物があれば記入下さい。			

＜注意＞共同研究者の会員登録をご確認ください。投稿料振込および投稿者（共同研究者含む）の登録確認が終了後、論文審査に入ります。この用紙はHPからも入手できます。

「日本スポーツ整復療法学会」個人会員入会申請用紙

・申込はこの用紙をコピーして必要事項を記入の上、事務局へ FAX で転送して下さい

申請年月日	(西暦) 年 月 日	事務局 FAX:043-254-8311	
会員資格	正会員 ・ 学生会員	都道府県名	
ふりがな 氏 名	印	郵便物送付先に○を付ける 自宅 勤務先	
生年月日	(西暦) 年 月 日生		
勤務先名			
勤務先住所	〒		
	電 話		FAX
	E-mail		
自宅住所	〒		
	電 話		FAX
	E-mail		
職業分野・免許 ○印を付ける	柔道整復師 鍼師 灸師 マッサージ師 理学療法士 カイロプラクター 大学教師 専門学校教師 医師 大学院生 学部生 専門学校生 その他()		
所属職能団体 ○印を付ける	日整 JB NSK 全国柔整師会 医師会 JATAC 大学 学生 専門学校生 研究所 その他()		
所属学会			
学 歴	高 校: 大学: 専門学校等:		
推薦者会員名	印	都道府県名	

※(正会員・学生会員ともに、申請時は推薦者として正会員1名の推薦が必要)

正会員:入会金 2,000 円、年会費 8,000 円 学生会員:入会金 0 円、年会費 5,000 円

下記にお振込下さい。

郵便振替番号:00110-4-98475 口座名義:日本スポーツ整復療法学会

「日本スポーツ整復療法学会」賛助会員入会申請用紙

・申込はこの用紙をコピーして必要事項を記入の上、事務局へ FAX で転送して下さい。

事務局 FAX:043-290-3776

申請年月日	(西暦) 年 月 日		
会員資格	賛助会員	郵便物送付先	勤務先
会社・団体名	ふりがな		
会社・団体 所在地	〒		
代表者名	フリガナ 氏 名		
担当者	フリガナ 氏 名 所属(担当)課 電 話 FAX E-mail		
金 額	・入会金 2,000 円也 ・年会費 8,000 円也 ・寄付金(1 口 8,000 円)(口分) 円也 計 円也		
備 考			

下記にお振込下さい。

郵便振替番号:00110-4-98475 口座名義:日本スポーツ整復療法学会

◆ますます充実したホームページ◆

昨年、日本スポーツ整復療学会のホームページを新しく作り替えました。より学会にふさわしいイメージになりました。このホームページをみて入会していただいた会員の方もおります。新しいメンバーが加わり、本学会がますます大きく飛躍していくように期待しています。

今後、ホームページを活用して会員への連絡事項を展開していきたいと思っています。より新しい情報を、より多くの会員に届けるように内容も刷新していく予定です。現在、ホームページ担当の会員が内容のチェックおよび刷新作業を行っております。掲載内容、方法等、アイデア・ご意見の方は事務局までご一報ください。また、学会ホームページに関わる作業に興味のある方は申し出てください。是非、学会の発展のために力を貸してください。（日本スポーツ整復療学会事務局ホームページ管理チーム）

新ホームページの URL

<https://jsspot.info/>

日本スポーツ整復療学会



本会は、柔道整復師やスポーツ系の領域などの関連諸科学と一線になり、情報交換やスポーツ整復療法学の構築、その発展を図ることを目的としています。
柔整師や鍼灸師、体育系スポーツ系大学や栄養学など様々な職種の方が集まり、毎年、研究発表会や学術講演会等の開催、学会誌の発行などを行っています。

第20回学会開催案内



2018年10月20日(土)・21日(日)に東京海洋大学にて開催されます。

[詳しくはこちら](#)

入会したい



入会方法やお問い合わせはこちらから

[詳しくはこちら](#)

研修会開催案内



各支部による研修会開催のお知らせ

[詳しくはこちら](#)

コンテンツ

- [第20回学会大会支援のお願い](#)
- [第20回学会大会開催案内](#)
- [学会会則](#)
- [投稿規定](#)
- [入会手続き](#)
- [連絡先変更](#)
- [各種申請書類](#)
- [年会費納入のお願い](#)
- [関連先リンク](#)
- [お問い合わせ](#)

事務局より

1. 第20回日本スポーツ整復療法学会学術大会が東京で開催されます。今回は20周年記念の大会になります。関東支部の皆様が興味深い企画を組んでくれました。2020年に東京オリンピック・パラリンピックを迎え、それにちなんで企画を検討しているようです。是非、参加のほどお願いいたします。日

2. 日本スポーツ整復療法学会の機関誌「スポーツ整復療法学研究」への寄稿を募集しております。寄稿は、「総説」、「原著論文」、「症例研究」、「研究資料」、「活動報告」、「教育講座」、「学会通信」、「会員動向」等、様々な形があります。是非、寄稿くださるようお願いいたします。皆様の情報発信の機関誌としてご活用下さい。審査はよりよい論文等になるように見ていただくためにあるものです。いろいろ指導していただけますので、どしどしご投稿ください。査読は今後の論文づくりの助けになると思います。意見が異なれば討論し、適切な示唆であれば今後の研究活動の糧とする、積極的な気持ちで論文づくりを楽しんでください。

3. 年度会費納入についてのお願い

今回、振込用紙を同封させていただきましたのでご利用ください。なお、郵便局に設置してある振替用紙を用いても振込ができます。その際には振込先氏名、番号を間違えないようにご記入ください。いずれにおきましても、振込証明書等は手元に残すようにしてください。二重の振込にはくれぐれもご注意ください。なお、二重の振込みをされた場合には、過去の未納入年度あるいは新年度に充当させていただくこともありますのでご承知おきください。その旨連絡をさせていただきます。

これまで年会費未納の方がかなりおられます。2018年度年会費と合わせて遡及納入していただけますようお願いいたします。3年以上会費未納の会員の方には学会機関誌の発送および各種案内の発送を停止しております。是非、納入していただけますようお願いいたします。これまでの納入が不明の場合は事務局までお問い合わせください。ご退会される場合は本部事務局まで連絡いただけますようお願いいたします。(退会される場合は未納入年度会費の納入をお願いいたします。)

年度会費	正会員	8,000 円	(新規入会時には入会費 2000 円を加算する)
	学生会員	5,000 円	(新規入会時の入会費不要、正会員に資格変更する際には 2000 円加算)
	賛助会員	8,000 円	(新規入会時には入会費 2000 円を加算する)
	購読会員	8,000 円	(新規入会時には入会費 2000 円を加算する)

納入先 郵便振替 日本スポーツ整復療法学会 口座番号 00110-4-98475
千葉銀行 穴川特別出張所 普通 3282277 日本スポーツ整復療法学会

4. 学会誌等が返送されてくる会員がおられます。諸連絡、学会誌等が会員のお手元に確実に届くためにも、移動された会員の方は変更(移動)届を出していただけますようお願いいたします。用紙はホームページにて入手ください。

学会ホームページ 新規(2017年8月より) <https://jsspot.info/>
(今後は徐々に新規の HP に移行しますので、変更をお願いいたします)

5. 会員諸氏の関係者で当学会への入会を希望の方がおられましたら、是非、ご紹介ください。入会用紙はホームページより入手していただくか、FAX またはメールで事務局までお知らせ下さい。必要書類を送付いたします。また、広告、展示等で協賛していただける企業のご紹介も是非お願いいたします。広告掲載(1~3号対象)および展示(学会大会)に関わる情報は学会ホームページから入手できます。あるいは事務局にお問い合わせください。資料を送付させていただきます。

6. 当学会についての問合せ、ご意見等ありましたら事務局(村松)までご連絡ください。e-mailあるいはFaxでお願いします。折り返し、連絡させていただきます。

(文責 村松成司)

編集後記

スポーツ整復療法学会が設立されて19年が過ぎようとしています。第1巻2号を見てみると、2000年3月27日現在で登録会員数472名の皆様が学会を立ち上げたと記載されています。実に多くの方々はその目的に共感され、結集されたものです。掲載されている氏名を眺めてみましても、現在において今なお活躍されている名前を多くお見かけします。約20年間もこの学会を牽引されてきたことを考えると頭が下がる思いです。研究活動も活発に行われており、毎年各号、研究報告等が満載されており、会員の活動もかなり活発になされていたことが推察されます。

現在なお大会においては口頭発表が、機関誌においては原著論文、活動報告等が報告されていますが、その数はかなり少なくなってきたと、初期に比べるとやや寂しさを感じることもあります。10年一昔、いやもう20年も過ぎようとしている現在では昔と比べ多くの環境条件(要因)が変化し、その活動自体も低迷せざるを得ない状況に追い込まれていることも否定できません。会員数も初期の実に半分以上に減少しています。機関誌掲載原稿もその投稿を心待ちにする機会が多くなりました。

20年を区切りに、再度初期の勢いを取り戻すべく、現在の会員の皆様のますますの活動を期待するばかりです。そして皆様にとって魅力ある機関誌になれますようにご支援、ご協力をお願いいたします。(SM)

編集委員会

滝瀬定文(委員長)

増原光彦 片岡幸雄 行田直人 渋谷権司 村松成司

Journal of Sport Sciences and Osteopathic Therapy

Vol.19 No.3 March 2018

禁無断転載

スポーツ整復療法学研究(第19巻・第3号)

非売品

2018年3月31日発行

発行者 日本スポーツ整復療法学会 会長 増原光彦

発行所 日本スポーツ整復療法学会事務局

(<https://jsspot.info/>)

〒263-0012 千葉県千葉市稲毛区萩台町664-83

TEL&FAX: 043-254-8311 E-mail: mshigeji@faculty.chiba-u.jp

郵便振替: 0110-4-98475

印刷所: 三陽メディア株式会社

〒260-0824 千葉県千葉市中央区浜野町1397番地

TEL: 043-266-8437 FAX: 043-266-1498

JOURNAL OF SPORT SCIENCES AND OSTEOPATHIC THERAPY

CONTENTS

Originals

- ITO Motoki, MURAMATSU Shigeji, NAKAGAWA Masatomo, HATTORI Yoji and HATTORI Yuji [111]
**Effect of alkali ion water intake before retiring and exercise loading after waking up on changes of
several blood characteristics and blood pressure in men**

News

- Guidance of “The 20th Japan sports Sciences and Osteopathic Therapy congress in 2018” (First Report)
Editor's postscript